

令和 8 年度 仙台 BOSAI-TECH イノベーション創出促進事業
自治体提供課題詳細

タイトル	クマ出没に関する市民からの多数の情報提供への対応と 情報発信を両立させる運用の実現
提供自治体名	宮城県仙台市
掲載期限	令和 8 年 8 月 21 日まで

1. 解決したい課題の背景

- ・ クマの目撃情報には正確なものが含まれる一方、誤認や伝聞による通報等、信ぴょう性の判断が難しい情報も一定程度含まれている。
- ・ 現在は、通報を受けた後、現地確認、関係機関との連絡調整、住民への注意喚起等を実施しているが、その多くが電話・FAX を中心とした対応であり、24 時間体制での対応により職員への負担が非常に大きい。
- ・ また、クマの目撃後に「いなくなった」と断定することは困難であり、警戒の解除時期や情報発信の判断に課題がある。
- ・ 警察・県・区役所等、多くの関係機関が関与するが、情報共有や対応フローが標準化されておらず、属人的な運用となりやすい。

2. 実現したいこと

- ・ 現在は電話を中心とした通報となっているが、通報情報（位置、時刻、状況等）を整理・標準化し、信ぴょう性を含めて扱える仕組みを構築したい。
- ・ 通報を起点として、現地確認の要否・優先度判断、注意喚起の範囲・内容、警戒解除の判断といった一連の意思決定を支援する仕組みを構築したい。
- ・ 警察・県・区役所等の関係機関との間で、情報共有の標準化および連携の効率化を図り、迅速かつ確実な対応を実現したい。
- ・ 現地確認においては、危険な場所への立ち入りを最小化するため、遠隔確認等の活用により安全性を高めることが望ましい。
- ・ 上記を通じて、対応の迅速化・精度向上と職員の負担軽減との両立を図りたい。

3. 想定している技術（こだわらない場合はその旨を記載）

- ・ 通報情報の整理・共有・可視化技術
- ・ 信ぴょう性評価や意思決定支援に資するデータ処理・分析技術
- ・ 遠隔確認（カメラ、センサー等）を活用した現地確認支援
- ・ 関係機関連携を支援する情報共有基盤

※上記に限定するものではない

4. 希望する実証時期・実証場所（現時点の想定）

- ・ 実証時期：令和8年9月～令和9年1月末
（実運用に近い環境での通報対応を通じて検証）
- ・ 実証場所：市内全域
- ・ 想定関係機関：警察、県、区役所、小中学校、幼稚園・保育園、町内会等

5. その他制約事項・補足事項（関連ホームページ等）

- ・ 現在の通報は電話が中心であり、その運用を前提とした設計が必要である。
- ・ クマの不在を完全に証明することは困難であり、解除判断はリスク評価に基づくものとなる。
- ・ 実装にあたっては、現場職員が継続的に運用可能なシンプルさ・実用性が求められる。